

ボランティアへ行GO・番外編①



ネパールでは学校に通わせてもらえない女の子が多い中、ブラジュアル学校は積極的に女の子を受け入れ、男女不平等の解消を目指している

数年前、ネパール中部の「ブラジュアル学校」は、まるで小屋のようなところだったという。平屋の学校は子どもたちでぎゅうぎゅう詰め。教材にもこと欠いていた。

課題は教員の育成

「エベレスト・オブ・アップルス(EofA)」の支援で、学校は生まれ変わった。昨年には、三階建ての新しい校舎が完成。EofAが集めた寄付金は、子どもたちの勉強道具や教員の給料などに有効に使われている。

だが「ただお金を寄付するだけではなく、目標は彼らが自立して学校を運営するこ

と、前会長のジュリア・ピアルさん(三〇歳)アメリカ出身にはこやかに話す。課題は教員の育成。「ハロー!」。月に一回、インターネット電話で本県とネパールがつながる。歴代の会長たちは、非政府組織(NGO)「NEST(ネパール教育支援団体)」会長のバーナ・スレッサさん(三三歳)とともに、具体的な支援を探ってきた。科学技術の進歩も、タイムリーな支援を支えているのだ。

は教員の育成。指導技術の教育を受けていない人が多いため、意識啓発やトレーニングを通じて「先生のプロ」を育てることに力を入れるという。バーナさんは「将来、学校を教員育成のトレーニングセンターにしたい。先進国や国内の教員を招いて優れた指導方法の知識を分かち合い、そして、地域住民も教育に巻き込みたいのです」と大きな期待感を示す。

「支援によって子どもたちの未来ができた。みんなに伝えてうれしかったのと同じように、大きな責任も感じました」とメラニーさん。撮影したビデオには、英語で「ジャーナリストになりたい」「社会の悪いことを無くしたい」と夢を語る子どもたちの笑顔がたくさん写っていた。

ネパールの名所と、本県の代表的な果物が組み合わされた「エベレスト・オブ・アップルス」。リチャードさんはこの名前に「たぐさんの小さな支援から大きな成果が生まれる」との思いを込めたという。

エベレスト・オブ・アップルス

寄付金で新校舎建築

高額の「もの」よりも長期的な教員育成への投資が必要」と、ロンドンからメールを送る。

EofAはさらに、貧しい子どもたちの未来のため、水牛を使った奨学金制度も検討中だ。一頭の水牛を貸し付け、

展させ、平和な世界につなげる「ことができると、彼らの支援が教えてくれた」とバーナさんは力を込める。

豊かな日本に生きる私たち。この夏は、ちょっぴり世界に目を向けてみませんか。



インターネット電話を通じ、学校の状況などについてバーナさんと打ち合わせをするメラニーさんとジュリアさん



昨年完成したブラジュアル学校の新校舎。3階建ての校舎は、2014年10月に完成した。